

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標	+5.1	+4.6	+4.6	令和12年度の目標	-0.1	-3.2	0	+3.3	+4.5	-0.9	-1.0	0
令和11年度の目標	+4.1	+3.6	+3.6	令和11年度の目標	-1.1	-4.2	-1.0	+2.3	+3.5	-1.9	-2.0	-1.0
令和10年度の目標	+3.1	+2.6	+2.6	令和10年度の目標	-2.3	-5.2	-2.0	+1.3	+2.5	-2.9	-3.0	-2.0
令和9年度の目標	+2.1	+1.6	+1.6	令和9年度の目標	-3.3	-6.2	-3.0	+0.3	+1.5	-3.9	-4.0	-3.0
令和8年度の目標	+1.1	+0.6	+0.6	令和8年度の目標	-4.3	-7.2	-4.0	-0.7	+0.5	-4.9	-5.0	-4.0
令和7年度の結果	0	-0.4	-0.4	令和7年度の結果	-5.3	-8.2	-5.0	-1.7	-0.5	-5.9	-6.0	-5.0
令和6年度の結果	+0.1	-1.1	-1.0	令和6年度の結果								
令和5年度の結果	-4.2	-2.5	-6.7	令和5年度の結果								

年度	令和7年度		令和8年度	
内容	成果と課題		目標	目標達成に向けた取組
学校全体	<p>【成果】 ○学期2回の東京ベーシックテストの実施(年6回)、その結果を受けての(平均正答率が低い単元を重点的にドリルパークに取り組む)週1回の計算タイムの実施が、児童の学力の底上げに繋がってきている。</p> <p>【課題】 ○全国学力・学習状況調査の結果からA層の児童数が減ったことに課題が残る。また、毎日の宿題、家庭学習の時間(学年×10分)の徹底、タブレットを使用した自主学習の推奨が引き続き大切になる。</p>		<p>○平均正答率全国との差を、国語、算数ともに1ポイント向上(例、第3学年国語→-4.3、算数→-7.2)を目指す。</p> <p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。また、図、数、式を使って問題を解決できるようにする。</p> <p>○対話的な授業実践と個に応じた指導を実践する。</p>	<p>○引き続き、学期2回の東京ベーシックテストの実施(年6回)、その結果を受けての(平均正答率が低い単元を重点的にドリルパークに取り組む)週1回の計算タイムの実施が、児童の学力の底上げに繋げていく。</p> <p>○算数科の授業では、習熟度の指導内容を見直し、くじら(発展)コースでは、授業の構成を工夫し、多くの発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組む時間を確保する。また、ペンぎんコースでは、個々の実態や特性に合わせた支援・指導の更なる充実を図る。</p> <p>○校内研究における「学び合える時間の確保」を大切に、毎時間の授業を実践していく。</p>
第1学年	<p>【成果】 ○日々の生活習慣を整えること、丁寧な支援・指導による学習規律の確立、毎日の宿題の徹底等を、学年として足並みを揃えて進められた。</p> <p>【課題】 ○学年として、足並みを揃えた丁寧な支援・指導を行っているが、個人の学びに差が出てしまっていることに課題が残る。引き続き、家庭とも連携・協力して進めていく。</p>		<p>○学年で足並みをそろえて学習規律、毎日の宿題の徹底を促す。</p> <p>○全ての教科において、自分の考えや感想を書く時間を設定し、表現力を養う。</p>	<p>○教科書やノートの使い方を全ての教科できまりを決めて学年で統一して指導していく。</p> <p>○宿題もドリル・音読を学年で統一して取り組ませる。(保護者の丸付け、確認も含め)</p> <p>○全ての教科で学習感想や振り返りを書く時間を設定する。それらを友達同士で共有する機会も設け、表現力の素地を養う。</p>
第2学年	<p>【成果】 ○朝の学習タイム(読書、計算)で、本に触れる時間を増やすことや、タブレット学習を通し、日常的に計算に取り組む習慣を身に付けることができた。</p> <p>【課題】 ○東京ベーシックテストの結果を見ると、「測定・変化と関係」の正答率が他の項目に比べ低い。朝の学習タイム(計算)で、苦手な問題の復習に取り組むことが重要である。</p>		<p>○指導方法を工夫し、児童が意欲的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>○毎日の宿題やミラシードのドリルパークの問題に取り組む機会を多く設け、正答率100%に児童が8割になるようにする。</p>	<p>○発問の精選や見やすく分かりやすい板書、興味をひくような授業の導入を実践する。</p> <p>○取り組み状況を学年・家庭と共有し、滞る場合には個別に声をかけ、放課後補習や家庭学習で取り組めるようにする。</p>
第3学年	<p>【成果】 ○宿題を毎日確実に行うことや、学校の教育活動の結果や情報を、家庭と共有することで意欲の向上を図れた。</p> <p>【課題】 ○江戸川区学力調査の結果を見ると、国語、算数平均正答率は全国、江戸川区の平均を下回る(国→2.6ポイント、算→4.3ポイント)結果が出た。そのため、引き続き、朝の学習タイム(読書、計算)で、本に触れる時間を増やすことや、タブレット学習を通し、苦手な単元の問題の復習に取り組むことが重要である。</p>		<p>○朝の学習タイム(読書、計算)をより効果的に運用するためにも、自己の課題を意識させながら学習習慣を定着させる。</p> <p>○「国語科」「算数科」ともに全国正答率との差を縮める。</p>	<p>○算数科の授業では、習熟度学習における指導開発を計る。</p> <p>○児童の特性を把握し、個々に応じた効果的な学習指導を意図的に図る。</p> <p>○朝の計算タイム「西っ子Study Everyday」、東京ベーシックドリルテストの苦手問題に取り組む時間をしっかりと確保する。</p>
第4学年	<p>【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、算数平均正答率は江戸川区の平均を上回る(0.5ポイント)結果が出た。朝の学習タイム(計算)が児童の学力向上に繋がってきている。</p> <p>【課題】 ○江戸川区学力調査の結果を見ると、国語平均正答率は全国、江戸川区の平均を下回る(3ポイント)結果が出た。そのため、引き続き、朝の学習タイム(よむYOMU)で、文章問題に取り組むことが重要である。</p>		<p>○算数科では、四則計算の方法や単位変換などについて理解し、正確に答えを導き出す力を養い、基礎基本の定着を図る。</p> <p>○児童自ら課題を設定し、課題解決に向けて学びを進め、納得解を見出すような探究的な学習活動を各教科で行い、主体的に学びに取り組めるようにする。</p>	<p>○児童の実態に応じて、休み時間や放課後の時間を活用し、個別学習に取り組むとともに家庭と連携し、躓きがある単元の学び直しに取り組む。</p> <p>○対話的で協働的な活動を設定し、自分の考えを深めながら「楽しい」「分かる」授業づくりを行う。</p> <p>○朝の計算タイム「西っ子Study Everyday」、東京ベーシックドリルテスト、よむYOMUタイムの取り組み等、苦手問題に取り組む時間をしっかりと確保する。</p>
第5学年	<p>【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語平均正答率は江戸川区の平均を上回る(1.2ポイント)結果が出た。朝の学習タイム(よむYOMU)が児童の学力向上に繋がってきている。</p> <p>【課題】 ○江戸川区学力調査の結果を見ると、算数平均正答率は全国、江戸川区の平均を下回る(5ポイント)結果が出た。そのため、引き続き、朝の学習タイム(計算)で、苦手な単元の問題の復習に取り組むことが重要である。</p>		<p>○習熟度の学習により、C層は学習意欲向上に向けて基礎の定着につなげられるようにする。B層、A層は発展的な学習の工夫を図り、学力向上につなげられるようにする。</p> <p>○対話的な学び、主体的な学びについては校内研究での取り組みの成果が出ているため、今後も引き続き「学び合える時間の確保」を充実させる。</p>	<p>○ミラシードを活用し、基礎の定着、発展的な問題に取り組む。</p> <p>○朝の計算タイム「西っ子Study Everyday」、東京ベーシックドリルテストの苦手問題に取り組む時間をしっかりと確保する。</p> <p>○個に応じた指導、ペア・グループによる学びを通じた発展的な深い学びに繋げる。</p>
第6学年	<p>【成果】 ○全国学力・学習状況調査の結果から、国語、算数ともにAB層の割合が全国平均を上回る(国→8ポイント、算→11ポイント)結果が出た。校内研究の取り組みや、朝の学習タイム(計算、よむYOMU等)が児童の学力の底上げに繋がってきている。</p> <p>【課題】 ○「領域別の結果」を見ると、算数科においては全ての項目で全国平均を上回る(約1ポイント以上)結果が出た。国語科においては、「書くこと」が全国、東京、江戸川と比べ下回る結果が出たため課題が残る。</p>		<p>○習熟度別の学習により、C層をB層へ、B層をA層へと繋がられるようにする。</p> <p>○対話的な学び、主体的な学びについては校内研究での取り組みの成果が出ているため、今後も引き続き「学び合える時間の確保」を充実させる。</p>	<p>○朝の計算タイム「西っ子Study Everyday」、東京ベーシックドリルテストの苦手問題に取り組む時間をしっかりと確保する。</p> <p>○個に応じた指導、ペア・グループによる学びを通じた発展的な深い学びに繋げる。</p> <p>○論理的な文章を書けるようになるために、事実や根拠を順番に書けるよう指導・助言する。</p>